

# 全苗連だより

Vol. 121 (1月号)

令和6年1月4日

発行：全国山林種苗協同組合連合会

Tel.03-3262-3071 Fax.03-3262-3074



## 新年の御挨拶

全国山林種苗協同組合連合会

会長 大森 茂男

新年あけましておめでとうございます。

皆様には、日頃から本会の運営に格別のご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

今年は、花粉症対策苗木の供給体制の構築並びに再生林に必要な苗木の増産体制の構築の二つが大きな課題となります。

戦後植栽し、撫育してきた人工林が成熟し収穫期を迎えて、いわゆる国産材時代を迎えています。

しかしながら、一方で花粉症に苦しむ方々が増えました。また、国産材の供給量が拡大しているにも係わらず、主伐後の再生林が伸び悩むという事態は、森林資源を「伐って(きって)、使って、植える」という森林を循環的に利用していく理念が崩れるばかりではなく、2050年カーボンニュートラルの実現にも悪影響を与えることは必定です。

そうした中で、花粉症対策については、昨年、関係閣僚会議で決定されたとおり、国をあげて取り組むこととなりました。

また、4月1日から新たな全国森林計画がスタートします。令和6年4月1日から令和21年3月31日までの15年間で、人工造林面積は1,375千ha計画されました。単純平均で年間9万1千haを超える造林面積です。直近の統計資料では令和2年度の造林面積が3万4千haですから、この計画量の大きさがお分かりかと思います。

今後、国民の健康に配慮し、林業の成長産業化や地球温暖化防止を図る上からも、まずは健全な森林を整備することが必要となります。そのためにも、その基礎資材である優良な苗木の供給は、今後とも欠かすことはできません。

私たちは、これまでの経験・実績・技術に基づき、品質の保証された苗木を安定的に供給していくことに大きな使命感を持っており、連携して対応していかなければなりません。

まずは、都道府県単位での需要と供給の完結を目指す必要があります。そのためには、国や都道府県、研究機関、そして需要者の方々とスクラムを組んで、森林整備の基礎資材である優良な苗木の安

定供給と後継者が困らない苗木生産経営を目指す必要があります。

最後に、今年が皆様にとって飛躍の年であるようご祈念申し上げますとともに、さらに本会へのご支援とご協力をお願い申し上げます、新年のご挨拶といたします。



## 年頭所感

林野庁長官

青山 豊久

新春を迎え、謹んで新年の御挨拶を申し上げます。

全国山林種苗協同組合連合会及び会員の皆様におかれましては、清々しい新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

また、日頃より森林・林業行政について特段の御理解と御協力をいただいておりますこと、さらには、優良種苗の安定供給や苗木生産技術の高度化に御尽力いただいておりますことに厚く御礼申し上げます。

戦後我が国において造成してきた人工林の多くが利用期を迎えており、「伐って、使って、植えて、育てる」森林資源の循環利用のサイクルを確立し、2050年カーボンニュートラルの実現と地域の林業・木材産業の成長産業化に貢献していくことが重要と考えております。

この考え方にに基づき、林野庁では、路網の整備、搬出間伐の実施、再生林の低コスト化、コンテナ苗の増産に向けた施設整備、高性能林業機械の導入、木材加工流通施設の整備、林業のデジタル化・イノベーション、JAS 構造材や CLT 等の建築物への利用促進等に努めていくこととしていきます。また、近年、これまでになく豪雨等による災害が頻発化・激甚化しており、防災・減災、国土強靱化のための森林整備や治山事業を着実に実施していくことがより一層重要になっております。

昨年10月、社会問題化している花粉症について関係閣僚会議が開かれ、「花粉症対策初期集中対応パッケージ」が決定されました。花粉症の原因で、有病率が最も高いスギ花粉を減少させるため、発生源であるスギ人工林の面積を10年後に約2割減少させることを目指し、その伐採・

植替え等の加速化、スギ材需要の拡大、花粉の少ない苗木の生産拡大、林業の生産性向上及び労働力の確保等を集中的に実施することが必要とされました。これらの施策に必要な予算を令和5年度補正予算で新たに措置したところであり、花粉症対策を着実に進めてまいります。

特に、花粉の少ない苗木の生産拡大に向けては、採種園・採穂園の整備に対する定額支援、コンテナ苗の増産施設の整備について年間5万本以上増産する場合の補助率の2分の1から10分の6への引上げ、苗木の県域を越えた広域流通を図るための協議会の開催等に対する補助など、支援の充実を図ったところであり、スギ人工林の植替え等に必要な苗木を安定的に供給できるよう取り組んでまいります。

林野庁としては、これらの取組を通じて森林・林業・木材産業を持続的に発展させ、また、我が国に暮らす全ての皆様が、林産物の供給、国土の保全、水源の涵養、二酸化炭素の吸収、生物多様性の保全など森林の有する多面的機能の恩恵を末永く享受できるよう、日々邁進していく所存です。優良種苗の安定供給に大きく貢献いただいている貴連合会の皆様方におかれましては、本年も林野行政への益々の御協力を賜りますようお願いいたします。

結びに、本年が、皆様一人ひとりにとって、実り多き素晴らしい一年になりますよう、心よりお祈り申し上げます。



## 新年の御挨拶

林野庁森林整備部

整備課長 木下仁

令和6年の年頭にあたり、謹んで新年の御挨拶を申し上げます。

全国山林種苗協同組合連合会及び会員の皆様におかれましては、日頃より優良種苗の安定供給に御尽力いただき厚く御礼申し上げます。

改めて申し上げるまでもなく、森林は、国土の保全、水源の涵養、地球温暖化防止などの公益的機能を有しており、安全・安心な国民生活に不可欠なものであります。過去の災害の例を見るまでもなく、ひとたび森林が損なわれれば甚大な被害を及ぼし得るものであり、特に近年、自然災害が激甚化・頻発化する中であって、将来にわたって森林が森林として維持され、適正な整備・

保全が図られることが益々重要な状況となっております。

一方、戦後造成された人工林の多くが本格的な利用期を迎える中、人口減少・高齢化の加速化等の社会課題に加え、複雑化する国際情勢の影響に対応しながら、いかに木材需要に的確に対応できる、国産材の安定的・持続的な供給体制を構築できるかが求められているところです。

これら森林の適正な管理と森林資源の持続的な利用を一層推進するにあたっては、主伐後の再造林を確実に進めることが最大の課題となっております。

再造林を推進するためには、コストを低減させることが肝要であるため、伐採と造林の一貫作業、植栽本数の縮減、下刈り回数の縮減などを進めることとしており、令和4年度からこれら低コスト再造林への支援を強化しているところです。また、これらの実施にあたっては、植栽時期を選ばないコンテナ苗や成長に優れたエリートツリー等の苗木の活用が必要不可欠であります。

令和3年5月に農林水産省が策定した「みどりの食料システム戦略」では、「エリートツリー等の成長に優れた苗木の活用について、2030年までに林業用苗木の3割、2050年までに9割を目指す」ことが目標として定められ、その達成に向けてエリートツリー等の増産を進めているところです。

さらに、昨年4月、多くの国民を悩ませ続けている花粉症問題の解決に向けて政府一体となって取り組むため、新たに「花粉症に関する関係閣僚会議」が設置され、5月には「花粉症対策の全体像」が決定されました。また、10月には、初期の段階から集中的に実施すべき対応を取りまとめた「花粉症対策 初期集中対応パッケージ」が決定され、花粉の発生源であるスギ人工林の面積を令和15年度に約2割減少させることを目指し、その伐採・植替え等の加速化等を集中的に実施することとされました。

花粉の少ないスギ苗木については、その生産割合を現行の5割から10年後に9割以上に引き上げることを目指し、採種園・採穂園やコンテナ苗増産施設の整備等、増産体制の整備を官民連携で短期的かつ集中的に進めることとされ、そのための予算を令和5年度補正予算で措置したところです。

林野庁としましては、エリートツリー等成長に優れた優良な苗木の安定的な供給に向けて、コンテナ苗生産施設整備等への支援に加えて、引き続き、生産技術の向上等に関する研修の開催等についても支援してまいりたいと考えています。

なお、コンテナ苗につきましては、新たな知見の蓄積やより大きな苗木へのニーズの増加も踏まえ、標準規格の見直しを行ったところであり、各地域における規格の見直しを通じて、苗木の広域流通の進展にも期待しているところです。

優良な森林資源を次世代につなげていくためにも、優良な種苗の生産はより重要性を増しており、豊富な知見と技術を有する貴連合会や会員各位の役割も益々重要となっております。

皆様方におかれましては、これら社会のニーズや新たな技術の動向も踏まえて、森林所有者等から求められる優良な種苗の生産拡大と安定供給に更なる御尽力を賜りますようお願い申し上げます。

げます。

結びに、本年が、貴連合会及び会員の皆様にとって幸多きものとなりますよう御祈念申し上げます。

### 全苗連・苗組の行事予定

- |          |   |
|----------|---|
| 1月4日     | 令和6年林業関係団体賀詞交換会(航空会館)(日本林業協会)           |
| 1月18～19日 | 北海道・東北地区林業用種苗需給連絡協議会(宮城県)               |
| 1月19日    | 令和6年第1回林業団体懇談会(日本林業協会)(航空会館)            |
| 2月2日     | 関東地区林業用種苗需給連絡協議会(千葉県)                   |
| 2月6日     | 林業種苗生産者講習会テキストの更新委託事業第3回検討委員会(日林協会館)    |
| 2月7日     | 第2回中央情報連絡協議会(web)(日本木材総合情報センター)         |
| 2月8日     | 令和5年度新たなコンテナ苗生産技術等調査委託事業第2回検討委員会(日林協会館) |

#### 【令和6年度】

- |        |                                     |
|--------|-------------------------------------|
| 4月上旬   | 令和5年度優良種苗生産推進対策のうち苗木生産技術の向上等事業林野庁報告 |
| 4月上旬   | 全国山林苗畑品評会三次審査                       |
| 4月中旬   | 全苗連正副会長会議                           |
| 4月下旬   | 全苗連監査会                              |
| 5月10日  | 全苗連理事会                              |
| 5月24日  | 全苗連通常総会                             |
| 9月4～5日 | 第8回全苗連生産者の集い(北海道)                   |